

# Learning Has No Border.

## ～学びに垣根はいらない～

学級担任制⇒学年（学年部）・教科担任制&学級担当制

昨年度、岩倉北小の高学年では、学級担任の交換授業と専科教員の組み合わせによる教科担当制を実施しました。全教科を学級担任一人で指導する学級担任制と異なり、教科担当制では、それぞれの教員が特定の教科を指導することで専門性を高めるとともに、他の学級・学年の児童との関係性を高めることができ、担任団のチームによる指導体制の礎を築くことができました。その成果として高学年を1つの学級に見立てた「イワスタ」の取組では、児童自身がよりよい学校をつくるためにゼロから作り出した委員会活動「スタプロ」や、全学年で役割分担をしたブース併設型運動会の開催等、児童の主体的な活動を高学年担任団が中心になり全教職員で支えることができました。

学校のパラダイム（従来の在り方）が、学校のすすめたいことを教職員が児童へ「指導」する教職員が主語の場所から、児童の「学び」を教職員が「支援」する児童が主語の場所にシフトする分岐点になりました。

今年度から、さらにもう一步「児童を主語」にした学校づくりをすすめるために、学級担任制を廃止し、「チーム（学年・学年部）担任制・教科担任制と学級担当制」へ移行します。従来の学級担任を中心とする学習指導や生活指導ではなく、学年や学年部（低・中・高学年）を基盤とした、チームによる指導体制の強化をはかります。

教科指導においては、各教科の担任を定めて専門的な学習指導を行うことができるようにします。また、従来型の学級担任制ではなく、チーム（学年・学年部）担任制として指導を行うことを基盤として、児童との関わりを深めていきます。ただし、学級ごとの担当が必要な場面もあるので、「6年1組担当」等の学級ごとの担当を配置します。

学級担任制を廃止することで、これまで学級担任による指導を基本として学級単位で固定することが多かった学習形態が、児童の「学び方」を基本とする学習グループを作ったり、学年を3グループに分けたり、課題別グループを構成したりとより柔軟に対応することが可能になり、主体的な学習態度の形成を高める効果が期待できます。

生活指導面においても、従来の固定学級担任制では、学級担任と学級児童との信頼関係をよりどころに様々な事象に対応していましたが、そのような関係性が十分でない場合は解決にむけての一步をすすめることが困難な状況も見られました。一方、チーム（学年・学年部）による指導体制では、より多くの教職員と信頼関係を結ぶことができ、様々な状況に対応することが可能となり、支援に厚みを作り出すことができます。

上記のようなチーム担任制に移行することで、全てが一気に解決するわけではありませんが、岩倉北小学校の目指す「全教職員で全校児童を育てる」という理念の具現化につながるものであると考えます。

岩倉北小学校では、「児童は担任を選べない」「となりのクラスはよく見える」という学級担任制の課題から脱却し、学びに垣根のない学校、**Learning Has No Border.**を目指していきます。

従来の学級担任制については、低学年・中学年でも廃止し、チーム（学年・学年部）担任制&学級担当制へ移行し、学びの垣根、学級の垣根をつくらない学校づくりをすすめます。ただし、低・中学年では、教科担任制は実施せず、学級担当を核として生活指導や、学年内や学年間の交換授業等の教科担当制や学級を解体しての学習グループの構成等を積極的にすすめます。